

# Concerto Zefiro



# コンチェルト・ゼフィーロ

～アリアンナの嘆き～

クラウディオ・モンテヴェルディ

マドリガーレの夕べ

1999年5月1日(土) 19:00 開演 三島市民文化会館小ホール

## コンチェルト・ゼフィーロ

つのだたかし(リユート)

指揮：市川行洋

# PROGRAM

## *Claudio Monteverdi (1567-1643)*

### **Lamento d'Arianna**                      アリアンナの嘆き(マドリガーレ第6巻より)

Lasciatemi morire	私を死なせてください
O Teseo	おお、テゼオ
Dove,dove e la fede	どこ、誠実はどこへいったの
Ahi ch'ei non pur risponde	ああ、やはり応えてはくれない

### リュート伴奏による重唱の楽しみ

Venite, venite	来れ、来れ
Ego dormio	私はまどろみ
Ego flos campi	私は野の花
Parlo miser o taccio	ああ、沈黙すべきか、話すべきか

### ～ 休憩 ～

### リュート独奏とリュート歌曲

Toccata & Gagliarda	<トッカータとガリヤルダ> G. G. カプスベルガー (G.G.Kapsberger )
Aria del Gran Duca & Correnta	<大公のアリアとコレンタ> S. ガルジ・ダ・パルマ (S.Garsi da Parma )
Lamento d'Arianna	アリアンナの嘆き

### リュートによる通奏低音付きのマドリガーレ

Ohime il bel viso	ああ、美しき人
Zefiro torna	西風が帰ってきて
T'amo, mia vita	君はわが命
Batto qui pianse Ergasto	きけ、エルガストが泣いている

## つのだたかし

ドイツのケルン音楽大学リュート科卒業。ルネサンス、バロックリュートのソロプログラムのほか、声楽曲の伴奏、バロックオペラ、室内楽の通奏低音の分野で国内外でのコンサート、放送・レコーディングで活動。

特にJ. ダウランドやC. モンテヴェルディの声楽曲のアンサンブルに力を注いでいる。ケース・オッテン(リコーダー)、ルーファス・ミュラー(テノール)、コンラット・ユングヘーネル(リュート)、花岡和生(リコーダー)、牧野正人(バリトン)、波多野睦美(ソプラノ)らの国内外のアーティストとも共演。

また自ら率いる古楽器アンサンブル《タブラトゥーラ》はヨーロッパの古楽器を使いながらも古楽の枠を越え、中世・ルネサンスから自らのオリジナル曲までを演奏する古楽にとどまらないユニークな音楽スタイルをもち活動している。これまで日本各地で公演するほか、国際交流基金の主催事業でカナダ、エジプト、イタリア、オーストリア、インド、パキスタンなど世界各国で公演を行い、称賛を受けた。

「オルフェオの嘆き」(1995・96)「コロンブスの夢」(1998)など歌と語りを融合した歌芝居のプロデュース公演でも高い評価を得ている。ほかに宗教音楽を演奏する《アンサンブル・エクレジア》を主宰。またプロデュースするパルドンレーベルから「リュート」「悲しみよ、とどまれ〜ダウランドのリュート歌曲」「サリー・ガーデン」「古歌」など古楽CDを発表、各方面から反響を得ている。アンサンブル・エクレジアも99年4月に6枚目のCD「ザビエル」をリリースした。タブラトゥーラはこれまで国内で6枚のCDを発表しているが99年秋、ドイツのテルデックからCDを発売予定。

## CDの紹介

つのだたかしがリュートを演奏しているCDの一部を紹介します。

- リュート **Pardon TAK43**  
リュートソロの名曲を集めたアンソロジー
- オルフェオの悲しみ **Pardon TM4534**  
牧野正人(バリトン) 歌とキタローネの絶妙のデュオがくりひろげるバロックの深い情感の世界
- 悲しみよ、とどまれ **Pardon TH4628**  
波多野睦美(ソプラノ) J.ダウランドのリュートソング。「レコード芸術」特選盤。
- サリー・ガーデン **Pardon TH4830**  
波多野睦美(ソプラノ)・福沢宏(ガンバ)・他 遠い時代から歌い継がれてきたイギリスのフォークソング。「レコード芸術」特選盤。
- 古歌 **Pardon TH5133**  
波多野睦美(ソプラノ)・上村かおり(ガンバ)・福沢宏(ガンバ)  
ルネッサンス・バロックの愛の歌を集めて。
- タブラトゥーラ **Pardon KTCR-1341**  
古楽合奏団タブラトゥーラのベストアルバム
- アンサンブル・エクレジア  
「サンタマリア」「イギリスの古いキャロル」「天使の歌」「ノエル」  
「聖母マリアの子守り歌」「ザビエル」が女子パウロ会より出版されています。
- 詳細についてはインターネットをご覧ください。
- ダウランド&カンパニー <http://www.linkclub.or.jp/~dowland/>  
女子パウロ会 <http://www.tosho.co.jp/pauline/>

## Claudio Monteverdi (1567-1643)

北イタリアのクレモナに生れたモンテヴェルディは、ここで伝統的なルネッサンスの作曲技法を学んだ後、1582年に「マドリガーレ第1巻」を出版する。1590年にゴンザガ公の治めるマントヴァ公国の宮廷音楽家として仕えることになった。このマントヴァの宮廷は、多くの優れた詩人、画家、音楽家、歌手などが仕えており、モンテヴェルディはこのような人たちに発奮されて、優れた作品を多く作曲した。

1592年に「マドリガーレ第3巻」を出版する。モンテヴェルディのルネッサンス的作曲技法によるマドリガーレはこの第3巻までで、1603年に出版された「マドリガーレ第4巻」は大胆なバロック的技法を含むものになった。

ルネッサンスの「静」に対してバロックは「動」ということがいえる。バロック音楽ではルネッサンス音楽には見られない、激しいダイナミックの変化、急速なテンポの変化がみられる。

ルネッサンスの声楽曲の特徴は、均整のとれた美しさ、美しい協和音、多声的であることである。ルネッサンスの多声的な声楽曲は言葉が不明確になりがちであったが、人間の真実の思いを表現しようとしたバロックの声楽曲は言葉を重視し、歌詞を明確にするため音楽は和声的になり、悲しみや怒りの気持ちを表現するために、大胆な不協和音が多く用いられた。こうして言葉を喋る、言葉の意味を伝える、ということを中心としたモノディという歌の形式が生れた。このモノディがバロックオペラを誕生させる源となった。

そのような様式を完成させたのがモンテヴェルディであった。「マドリガーレ第4巻」では激しい音のぶつかり合いなど、劇的表現が用いられた。保守的なある理論家はこのモンテヴェルディの曲を非難したが、モンテヴェルディは2年後に「マドリガーレ第5巻」を出版し、この序文で、「従来の作曲法は<第1技法>(primo pratica)であり、この新しい作曲法は<第2技法>(seconda pratica)によるものである」としてこの非難に応酬した。この第5巻では、バロック音楽のもう一つの特徴である「通奏低音」付きのマドリガーレも含まれていた。「君はわが命 (*T'amo mia vita*)」はこの第5巻に含まれ、通奏低音付きで書かれている。

1608年、ゴンザガ公の長男の結婚式のためのオペラを依頼されたモンテヴェルディはオペラ「アリアンナ」を発表した。このオペラで多くの女性がアリアンナの不運に涙したといわれる。このオペラは現在では失われてしまい、その全貌がわからないのはとても残念である。しかし、この「アリアンナ」は当時のイタリアで大評判になり、1623年に「アリアンナの嘆き (*Lamento d'Arianna*)」の部分だけが出版されて今日まで残った。このモノディ様式による「アリアンナの嘆き」ではバロック音楽の特徴である言葉を語り、激しい感情表出を聴く事ができる。自分を置き去りにしたテゼオに対する憎悪と恋心が交錯するところなど、非常に劇的な表現である。また通奏低音との激しい音のぶつかり合いなどが聴きどころとなっている。モノディ様式を代表する名曲といってさしつかえないだろう。

この世俗曲「アリアンナの嘆き」の音符はそのままに歌詞だけを、<聖母マリアが、十字架に架けられたイエスの元で嘆く>というものに置き換えた「マドンナの嘆き (*Pianto della Madonna*)」という宗教曲を1640年に発表している。

1614年すでにマントヴァからヴェネツィアに移ったモンテヴェルディは5声のマドリガーレ集としては最後になる「マドリガーレ第6巻」を出版し、当時大評判の「アリアンナの嘆き」を、5声のマドリガーレとしてこの中に含めた。ここでも激しい音のぶつかり合いや、感情表出が聴かれるのはモノディの「アリアンナの嘆き」と同様である。

「ああ、美しい人 (*Ohime il bel viso*)」と「西風が帰ってきて (*Zefiro torna*)」はともに、14世紀イタリアの大詩人ペトラルカの詩による。この2曲と「願ってくれ、エルガストが泣いている (*Batto, qui pianse er gasto*)」の3曲は、ともに第6巻に含まれ、4行・4行・3行・3行という<ソネット形式>で書かれている詩である。原詩を見ていただいて、各行の末尾の韻のふみかたにも注意してほしい。Zefiro torna では前半部分の明るい春の光景に対して、後半の重い気分のところで激しい不協和音が聴かれるところも聴きどころである。

二重唱による「来れ、来れ (*Venite, venite*)」「私はまどろみ (*Ego dormio*)」、独唱曲「私は野の花 (*Ego flos campi*)」の3曲はラテン語による宗教曲、三重唱「ああ、沈黙か、話すか (*Parlo miser o taccio*)」は「マドリガーレ第7巻」(1619)である。

(市川行洋)

## *L'amento d'Arianna*

Ottavio RINUCCINI (1608)

アテネの王子テゼオはクレタに人質としてとられた少年少女たちを救おうとします。しかし、人質たちは入ったら二度と出てこれないという迷宮ラビリンスに閉じ込められています。テゼオに恋したクレタの王女アリアナは、父王を裏切り、テゼオに結婚の約束をさせ、この迷宮から出る方法を教えてしまいました。アリアナが片方の端を持った毛玉を手にしたテゼオは、迷宮の奥深く入り怪物ミノタウルスを退治し、人質たちを救い出しました。

帰りの船の上にはアリアナの姿がありました。アテネに帰る途中ナクソス島に寄ったテゼオは、敵の王女を結婚相手としてアテネに連れ帰るのは問題だ、という部下の忠告をうけ、アリアナを島に置き去りにして出帆してしまいました。テゼオに捨てられたことを知ったアリアナは、悲しみのうちにテゼオを呪い、憎み、それでもなおテゼオに恋しているのです。

対訳は意味をつかんで歌うために作ったもので、決して文学的なものではありません。なるべくイタリア語の詩と同じ行に日本語があるように訳しているので、日本語としては語順がおかしくなっていることをご承知ください。

Lasciatemi morire, lasciatemi morire

E che volete voi che mi conforte

In cosi dura sorte

In cosi gran martire?

Lasciatemi morire

私を死なせてください。

誰も私を慰めてはくれないのですから

このようなひどい仕打ちを受け

このような大きな苦しみを受けているのに

私を死なせてください。

O Teseo, o Teseo mio

Si che mio ti vo dir, che mio pur sei

Benche t'involi, ahi crudo! a gli occhi miei

Volgiti, Teseo mio

Volgiti, Teseo, o Dio!

Volgiti indietro a rimirar colei

Che lascialto ha per te la patri e il regno

E in questa arena ancora

Cibo di fere dispietate e crude

Lasciera l'ossa ignude

O Teseo, o Teseo mio

Se tu sapessi, oime! come s'affanna

La povera Arianna

Forse pentito

Rivoigeresti ancor la prora al lito

Ma. con l'aure serene

Tu te ne vai felice et io qui piango

A te prepara Atene

Liete pompen superbe, et io rimango

Cibo di fere in solitarie arene

Te l'uno e l'altro tuo vecchio parente

Stringera lieto et io

Piu non vedrovvi, o madre, o padre mio

ああテゼオ、私のテゼオ

そう、あなたは私のものといいたい

あなたの姿が、ああ酷い、見えなくても

戻ってください 私のテゼオ

戻ってください、テゼオ、ああ神よ

戻ってもう一度私を見てください

祖国を捨て王女の座も捨て

この海辺に一人残され

獐猛で残酷な獣の餌食となる私を

骨だけになった私を

ああテゼオ、私のテゼオ

あなたが知れば、ああ、この苦しみを

哀れなアリアナの

きっと後悔して

船先を帰して 戻ってくれることでしょう

しかし、あなたは穏やかな風とともに

幸せに去り、私は嘆いている

アテネは準備しているでしょう

盛大にあなたを歓迎するための

そしてわたしはこの海辺で 獣の餌食となるのです

あなたは年老いた両親と

楽しそうに抱き合い、そして私は

ああ母よ、ああ父よ、もう会うことができない

Dove, dove e la fede  
Che tanto mi fiuravi?  
Cosi ne l'alta sede  
Tu mi ripon de gli avi?  
Son queste le corone  
Onde m'adormi il crine?  
Questi gli scettri sono  
Queste le gemme e gli ori  
Lasciarmi in abbandono  
A fere che ni strazi e mi divori?  
Ah Teseo, ah Teseo mio  
Lascierai tu morire  
In van piangendo, in van gridando aita  
La misera Arianna  
Che a te fidossi e ti die gloria e vita?

Ahi, che non pur risponde!  
Ahi, che piu d'aspe e sordo a' miei lamenti?  
O nemi, o turbi, o venti  
Sommergetelo voi dentra' a quell' onde?  
Correte, orche e balene  
E de le membra immonde  
Empiete le voragini profonde  
Che pario, ahi! che vaneggio?  
Misera, ohime! che chieggio?  
O Teseo, o Teseo mio  
Non son, non son quell' io  
Non son quell' io che I ferì detti sciolse  
Parlo l'affanno mio, parlo il dolore  
Parlo la lingua sì, ma non già l'core

Misera! ancor do loco  
A la tradita speme, e non si spegne  
Fra tradito scherno ancor d'amore il foco?  
Spegni tu, Morte, omai le fiamme indegne  
O madre, o padre, o del l'antico regno  
Superbi alberghi, ov'ebbi d'or la cuna  
O servi, o fidi amici (ahi fato indegno!)  
Mirate, ove m'ha scorto empia fortuna!  
Mirate di che duol m'han fatto erede  
L'amor mio, la mia fede, e l'altrui inganno  
Cossi va chi tropp'ama e troppo crede

どこ どこへ行ったの  
あなたが私に誓った真心は?  
あなたは私を座らせておくのですか  
このような玉座に?  
冠はこれですか?  
これで髪を飾るのですか?  
これが王杖ですか?  
これが宝石、黄金ですか?  
私を見捨てて  
獣が引き裂きむさぼるままにしておくのですか?  
ああテゼオ、わたしのテゼオ  
あなたは私を死なせるのですか  
むなしく泣き 助けを呼ぶ  
この不幸なアリアナを  
あなたを信じ 栄光も命も預けた私を

ああやはり応えてはくださらない  
私がどんなに嘆いていても きいてはくださらない  
雲よ、嵐よ、風よ  
あの人を波の間に沈めてしまえ  
鯨よ、鯨よ、急いで  
あの人の手足でもって  
深い海の底を満たしてしまえ  
ああ、なんてことを言ってしまったのだろう  
ああなんてこと、なんてひどいことを望んだのだろう  
ああテゼオ、私のテゼオ  
いまは私ではありません  
おそろしいことを言ったのは 私ではありません  
わたしの苦しみが、悲しみが言ったのです  
口だけのこと 心からではありません

<五声マドリガーレはここまで>

ああ、もう一度場所をあたえようというのか  
裏切られた希望に そしてこのような侮蔑にも  
まだ恋の炎は消えないのか  
おまえが消すのだ、死よ、価値なき炎は  
ああ父よ、ああ母よ、ああ懐かしの王国よ  
私が黄金の揺りかごで過ごした  
ああ召使いたち、忠実な友たち、(ああ価値なき運命)  
見なさい、残酷な運命が導いた所を  
見なさい、この苦痛を私に与えた  
私の愛を、私の誠実を、私を裏切った人を  
このようになるのです 愛しすぎ信じすぎる人は

## Ohime il bel viso

Francesco Petrarca (1304-1374)

Ohime il bel viso, ohime il soave sguardo,  
Ohime il leggiadro portamento altero,  
Ohime il parlar ch'ogni aspro ingegno e fero  
Faceva humile, ed ogni huom vil gagliardo.

あゝ美しい人 あゝ愛らしい眼差し  
あゝしとやかで誇り高い身のこなし  
あゝその話し方は 荒々しく乱暴な資質を大人しくする  
そしてすべての臆病な者をたくましくする

Et ohime il dolce riso onde usci'l dardo  
Di che morte, altro ben gia mai non spero:  
Alma real, dignissima d'impero,  
Se non fosse fra noi scesa si tardo.

そしてあゝその甘い微笑みから放たれる矢で  
死ぬことで他のどんな望みもなくなる  
高貴な魂 帝国で最も気高いもの  
彼女が我々の中に降りてくるのが遅そかった

Per voi convien ch'io arda e'n voi respiro,  
Ch'i' pur fui vostro; e se di voi son privo  
Via men d'ogni sventura altra mi duole.

あなたたちのため私は燃え上がり息ができる  
私はあなたたちのものだった あなたたちから離され  
他のすべての不運よりも私を悲しませる

Di speranza m'empieste e di desire  
Quando'io parti dal sommo piacer vivo;  
Ma'l vento ne portava le parole.

私を希望と願いで満たしてくれる  
私が生きている喜びの頂点から離れたときに  
しかし風はこれらの言葉を運び去ってしまう

(市川行洋)

## Zefiro Torna

Francesco Petrarca (1304-1374)

Zefiro torna e'l bel tempo rimena  
Ei fiori e l'herbe, sua dolce famiglia  
E garrir Progne e piagner Filomena  
E Primavera candida e vermiglia

西風が帰ってきて、美しい季節が運んでくる  
花々、草木などの甘美な仲間たちを  
そしてプローニエの囁りとフィロメーナの悲しみを  
そして無垢で朱色の春を

Ridono i prati e'l ciel si rasserena  
Giovi s'allegra di mirar sua figlia  
L'aria e l'aqua e la terra e d'amor piena  
Ogni animal d'amar si racconsiglia

草原は笑い、天は晴れ渡る  
ジュピターは自分の娘を見つめ陽気になる  
空気や水や地は愛で溢れる  
すべての動物は再び愛し合う

Ma per me, lasso, tornano I piu gravi  
Sospiri che dal cor profondo tragge  
Quella ch'al Ciel se ne porto le chiavi;

しかし私は、ああ、戻ってしまう  
深い悲しみからくる重いため息に  
というのは彼女が鍵を天に運んでしまったから

E cantar augelletti, e fiorir piagge  
E'n belle donne honeste arti soavi  
Sono un deserto e fere aspre e selvaggie

そして小鳥たちの歌、地の花々  
そして美しく高潔な女性たちの甘美な振舞いは  
獐猛で野蛮な獣のいる砂漠になる

(市川行洋)



## *“T’amo, mia vita” la mia cara*

*Gian Battista Guarini (1598)*

“T’amo, mia vita” la mia cara  
dolcemente mi dice, e’n questa sola  
si soave parola  
par che trasformi lietamente il core,  
per farmene signore.  
O voce di dolcezza e di diletto!  
Prendila tosto, Amore;  
Stampala nel petto.  
Spiri solo per lei l’anima mia;  
“T’amo, mia vita” la mia sia

「あなたを愛しています、私の命」私の愛する人は  
甘く私に言った。その唯一つの  
甘い言葉によって  
彼女の心は幸せになり  
私が彼女の心の主となる。  
あゝ やさしくよろこばしい声！  
急いで、愛の神よ  
その言葉を胸に刻んで、  
私の魂はそれのためだけに呼吸し  
「あなたを愛しています、私の命」を私の命とせよ。

(市川行洋)

## *Batto qui pianse*

*Giambattista Marino*

Batto qui pianse er gasto: Ecco la riva,  
Ove, mentre seguiva cerva fugace,  
Fuggendo Clori il suo pastor seguace  
Non so se piu, seguiva, o se fuggiva.

Deh mira egli dicea Se fuggitiva  
F ere pur saettar tanto ti piace  
Saetta questo cor, che soffre in pace  
Le piaghe, anzi ti segue, e non le schiva

Lasso non m’odi? E qui tremante e fioco  
E tacque giacque. A questi ultimi accenti  
L’empia si volse, e rimirolle un poco.

All’hor di nova Amor Fiamme cocenti  
l’accese. Hor chi dira che non sia foco l’humor  
Che cade da duo lumi ardenti.

聴いてくれ、とエルガストが泣いて語った。この岸辺で  
逃げる雌鹿を追いかけてながら  
クロリスは追いかけてくる羊飼いかから逃げていた。  
彼女は追いかけていたのか、逃げていたのか？

あゝ、そんなに楽しいのだね  
逃げる獲物を射ることが  
この胸にもその矢を射って欲しい。静かに苦しみ、  
傷つき、それでもおまえを求め、矢をさけたりしないが。

ああ、聞こえないのだろうか。今、ここに震え、青ざめながら  
黙してやつれる胸の音。その最後の音にも  
残酷なあの人、ただ振り返り一瞥するのみ。

そして新しい恋の炎に火が  
彼女を包んだ。誰も否認はしないだろう。  
両の目から流れ落ちたものが恋の炎であることを。

(山崎 香)

## この美しい季節に

1951年、当時盛んになりつつあった「合唱」という音楽活動の中からみどり会合唱団が生まれました。創立者の杉山一郎氏の「永遠に緑なす」という願いからこの名がつけられたそうです。創立当初より、当時としては珍しいマドリガルなどのルネッサンス音楽をそのレパートリーの主たるものにし、それが今日の私たちの活動の礎になっています。

昨年、私たちは長年なれ親しんだ「みどり会」という名を改名することを決意しました。「決意」というとおおげさに聞こえますが、50年の歴史と聴いていただく皆様に知られた名がなくなるというのは容易に決断できるものではありませんでした。しかし、類似の名の合唱団が県内にあることや、私たちのレパートリーにふさわしい名ということを考慮し、杉山氏とも相談の上改名をすることにしました。

新しい名「コンチェルト・ゼフィーロ」(Concerto Zefiro)はイタリア語です。日本語にすると「西風合唱団」ということとなります。日本の春の風は東風(こち)ですが、ヨーロッパでは西風が春の風になるようです。Zefiroはモンテヴェルディのマドリガール「Zefiro torna (西風が帰ってきて)」からいただいた名前です。この曲の詩は14世紀のイタリアの詩人ペトルルカによって書かれました。「西風が帰ってきて、美しい季節が、草木や花々を運んできた。小鳥はさえずり、美しい春がやってきた。」という内容の詩です。

コンチェルト・ゼフィーロが誕生したのは1998年5月1日、そうなのです、今日は丁度1年目の記念日なのです。ゼフィーロの名にふさわしいこの季節に、この日に、私たちの歌を聴いていただけるのは大きな幸せです。この幸せを皆様に伝えられる演奏会にしたいというのが私たちの願いです。

今日の記念すべき演奏会につのただかし氏にリュートを弾いていただくことをお願いしました。つのだ氏はリュート奏者として日本のトップにあるばかりでなく、世界で活躍している音楽家です。私たちは氏の厳しい指導を受けて今日の演奏会となりました。それに応えた演奏ができていくか、皆様のご高評をいただきたいと思っています。

本日はご来演、本当にありがとうございます。

コンチェルト・ゼフィーロ 一同

代表者/指揮者 市川行洋

## Concerto Zefiro

ソプラノ	旭 智子	服部礼子	
メゾソプラノ	伊熊公子	土屋奈緒子	友田奈緒美
アルト	田中晴代	星野仁美	清田かおる*
テノール	宇井倬二	水谷仁直	鈴木三郎*
バス	友田晃利	市川行洋	
指揮	市川行洋		
チェンバロ	杉山佳代*		
リュート	西野潤一*		
ヴィオラ・ダ・ガンバ	八田五郎*		
バロック・チェロ	山崎 香*		

\*本日は出演していないメンバー

## **コンチェルト ゼフィーロ**

インターネット上にコンチェルト・ゼフィーロのホームページがあります。

<http://www2.tokai.or.jp/Musa/>

入団を希望される方、詳細を知りたい方は下記までご連絡ください。

phone / fax : 0559-76-1584    E-mail : [zefiro@thn.ne.jp](mailto:zefiro@thn.ne.jp)

チラシ・ポスター・プログラムに使用しているイラストは 林 由紀子 さんによるものです

# Concerto Zefiro